

単純化したお金の話

[ライブラリ](#)

「財源が足りないから増税する」という言い分

流通しているお金の中に利益や利息の分のお金は、その時点では「無い」ので（利益分・利息分だけお金は足りない）、お金は供給し続けなければなりません。不足分ピッタリ供給する必要はありませんので、多めに供給します。多めに供給すれば、平均して一人あたりの所有金額も増えるので、国民は物を消費しやすくなります。

十分な量の商品が市場に流通しておりますので、物が手に入らない理由は「お金が無い」からで、「物が無い」からではありません。お金が足りなければ、お金を発行すればいいことになりますが、流通している商品より多く発行すると、お金がダブついて紙幣価値が下がります。

税金、税金…と、切り詰めた生活をしている国民に「お金」を求めますが、税金は「お米」ではありません。

お米は百姓さんに「年貢米」として納めてもらうしかありませんが、「紙幣」は国側が発行できます。国側が発行した紙幣を国民経由で政府へ戻す必要はなく（それが税金）、迂回せず直接政府へ届けます。直接ができないのは政府の問題です。

政府は「政府の問題」を「国民の問題」にすり替えて、税金徴収という形で国民から財産を分けてもらっています。

財産と言っても、国側が発行した紙の集まりですし、ゴールドなどの財物も紙で評価しますので、「財産を築いたところで何になるんだ」とガッカリしますが、紙幣でお買い物ができる点は優れています。

この論理が 100% 正しいとは申しませんが、現行のやり方も不完全です。過ぎたるは及ばざるが如しで、答えは中間にあります。

「稼げないから」が理由でも、流通しているお金の量が少なければ、国民の手元に十分な量のお金は届きません。

そこそこ稼げて、流通しているお金もたくさんあるのに国民の手元にお金が届かないなら、堰き止めされています。堰き止めはダメです。

「国の財源の出処は税金でなければならない」は思い込みです。国の収入の半分は公債金なので、税金だけで国家運営している訳ではありません。

最終更新日 2026-06-21

[まこと](#)